

寒冷気候で生きる

鹿追の冬は長く厳しいもので、その寒さは日常生活のさまざまな側面に影響を与えます。気候は厳しいかもしれませんが、特定のメリットもあります。鹿追の住人たちは、その寒さを受け入れ、チャンスを最大限に生かすことを学んできました。

アクティビティやイベント

冬のほとんどは雪が地面を覆い、特に気温が-30 度にまで下ることがある然別湖周辺の山々は深い雪に覆われます。極寒は普通では見られない氷生成を生み、フロストフラワー、キャンドルアイス、霜などの現象を生み出します。スノーシューイングは、つかの間の自然形成を観察したり、雪に覆われた景色を楽しんだり、オジロワシなどの野生生物を観察することができる人気の手段です。

また、然別湖は、然別湖コタンと呼ばれる長年続く地元のイベントの開催地でもあります。毎年冬になると、イベント主催者やボランティアの人たちが、凍った湖にかまらの村（然別湖コタン）を作ります。アイスバー、結婚式向けのアイスチャペル、コンサート用のアイスホール、アイスロッジ、そして温泉露天風呂が体験できます。かまらの村を作り、1 月下旬から 3 月中旬までの間これを維持するために必要な、およそ 5,000 ブロックもの氷を作るために、およそ 80 トンの雪と湖の水が使われます。

農業

農業は鹿追の主要産業です。長い冬により農作業の期間は短縮されるものの、雪のおかげで持続

可能な冷蔵貯蔵と天然の防虫対策ができます。農家の人たちは、生産物を保存するため、断熱性のある設備に雪をかき集めます。実際に、ジャガイモ農家の人々は、この「雪の倉庫」を使って、甘さが増した特別な種類のジャガイモを生産しています。寒さにより、収穫したジャガイモ中のでんぷんが糖分に変わるので。また、農家の人たちは、農地を覆う雪をかいて、ジャガイモが植えてある部分の雪を一部取り除くことで、地面を冬の氷点下の温度にさらします。そうすることで、雪による断熱効果を取り除かれ、地面と冬を越すジャガイモが凍り、枯れや昆虫の卵による被害が無くなります。